

授業科目	臨地実習Ⅱ (2021 年度入学生)				単位	2		
履 修	選択	関連資格	管理栄養士 栄教一種免		ナンバリング	NT32302 J		
開講年次	3~4	開講時期	後期・前期	該当D P	DP1-1 DP1-2 DP2-1 DP3-1 DP4-1 DP4-2 DP5-1			
担当教員	渡邊 和美、山田 志麻							
授業概要	<p>【実務家教員担当科目】 【実務家教員担当科目】</p> <p>臨地実習は管理栄養士養成のための実践教育科目であり、実践的能力を身に付けることができるよう、さまざまな施設での実習を経験する授業である。実習の目的は、「多様な専門領域に関する基本となる力」、「知識・技能・態度および考え方の総合的能力」、「チーム医療の重要性を理解し、多職種や患者・入所者のコミュニケーションを円滑に進めるための能力」、「保健・医療・福祉・介護システムの中での栄養・給食関連サービスのマネジメント能力」、「健康の保持増進・疾病の一次、二次、三次予防のための栄養・食事指導(教育)能力」など多岐にわたるため、実践の場で学び、身に付けることが重要である。そのためには、何よりも医療提供施設・介護老健福祉施設で管理栄養士がどのような実践活動をしているかを臨床の現場で学習することが大切となる。さらに、医療人としての資質を身に付け、管理栄養士としての感性を養うために、臨床現場である各施設で、患者や入所者を中心とした医療・介護の実際や他の専門職種の人々との連携についても深く学習する必要がある。これらの施設での実習を通じて、課題発見・解決、栄養評価・判定に基づく適切なマネジメント能力を伸ばすことを期待する。</p>							
学生が達成すべき行動目標	<ol style="list-style-type: none"> 1.周りの人に配慮し、良好な人間関係を築くことができる。 2.地域、学校、病院、社会福祉施設、事業所等には、どのような人たちがいて、どのような健康課題を抱えている人が多いのかを把握する。 3.地域、学校、病院、社会福祉施設、事業所等の対象者は、どのような食事をしている人が多いのかを把握する。 4.保健・医療・福祉現場における管理栄養士・栄養士の主な活動を把握する。 5.上記の内容を踏まえ、専門職としての使命、習得すべき資質・知識・技術を考え、カリキュラムとの関連性を把握する。 6.自己の課題を明確にし、目標を設定することができる。 							
達成度評価								
評価と評価割合／ 評価方法	試験	小テスト	レポート	発表(口頭、プレゼンテーション)	レポート外の提出物	その他	合計	備考
総合評価割合	0	0	30	10	10	50	100	
知識・理解 (DP1-1)						5	5	
知識・理解 (DP1-2)					10	10	20	
知識・理解 (DP1-3)								
知識・理解 (DP1-4)								
思考・判断 (DP2-1)			10			10	20	
思考・判断 (DP2-2)								
関心・意欲 (DP3-1)			5	10		15	30	
関心・意欲 (DP3-2)								
態度(DP4-1)						5	5	
態度(DP4-2)			5			5	10	
態度 (DP4-3)								
技能・表現 (DP5-1)			10				10	
技能・表現 (DP5-2)								
技能・表現 (DP5-3)								
具体的な達成の目安								
理想的レベル				標準的なレベル				

1.業務上の問題点や課題があることに気づく。 2.個人の多様性や喫食者ニーズの変化に気づく。 3.予定外や想定外の出来事や要求に臨機応変に対応する必要があることに気づく。 4.栄養摂取状況から栄養管理を必要とする人が多いことに気づく。 5.問題点や課題への取り組みの重要性に気づく。 6.管理栄養士・栄養士業務の重要性に気づく。		1.栄養・給食部門業務の全体像の概略を把握する。 2.食事の提供場面、喫食者の食事場面を観察する。 3.実際にどのような健康管理・栄養管理が行われているかを実習する。 4.実践体験から健康・栄養食事指導に必要な能力とはどのようなものを学ぶ。 5.栄養評価・判定について実習する。 6.地域社会の栄養問題の必要性を知り、事業を実習する。 7.食事サービスによる栄養管理と経営管理のマネジメント方法について学び、他部署・部門、他職種との連携を図る。		
授業計画				
進行	テーマ・講義内容	授業の運営方法	学習課題(予習・復習)	予習・復習時間(分)
1	<事前学習> 渡邊和美、山田志麻 ・第1回オリエンテーション ・実習の目的、実習に対しての心構えについて説明する。	講義・演習	予習:事前学習ノートを作成し、実習項目について、整理しまとめる。 復習:事前学習ノートにより深く調査し、まとめる。	120 120
2	<事前学習> 渡邊和美、山田志麻 ・第2回オリエンテーション ・実習ノートの使い方、腸内細菌検査、病院での接遇について説明する。	講義・演習	予習:実習ノートを確認する。これまでに学んだ知識を整理し、まとめる。 復習:実習に対する心構え、知識および技術について、再度確認する。	120 120
3	<事前打ち合わせ> 渡邊和美、山田志麻 ・実習先への事前訪問 ・実習における確認事項のまとめ、報告を行う。	講義・演習	予習:実習にあたり、実習先施設および栄養部門の概略を調べ、まとめる。 復習:確認事項をとりまとめ、課題の進行を確認する。	60 60
4	<事前学習> 渡邊和美、山田志麻 ・第3回直前オリエンテーション ・実習にあたっての各自の目標を確認する。 ・社会人としての礼節、職業倫理、実習の取り組み方等について、説明する。 ・持参物、実習施設より提示された課題(一般食から治療食への展開、指導媒体等)についての取り組みを、確認する。	講義・演習	予習:実習にあたっての目標を設定し、課題をまとめる。 復習:実習に対する心構え、知識および技術について、再度確認する。	360 360
5	<実習施設での実習> 実習先教員(2~3週間) ・実習施設の指導担当者の助言・指導に基づき、積極的に実習へ取り組む。	講義・演習・実習	予習:実習計画を参照し、事前学習を行う。 復習:実習内容を整理し、学習ノートにまとめる。理解できなかった内容は自己学習し、知識を整理し、翌日の実習に備える。	60/日 120/日
6	<事後指導> 渡邊和美、山田志麻 ・事後報告会 ・実習中、実践活動の場での課題発見(気づき)と必要な知識・技術について、事後報告を行う	講義・演習	予習:実習内容をまとめ、発表資料を作成する。 復習:実習ノートを整理し、実習の自己評価を行ったのち、実習ノートを提出する。	120 120

	う。 ・特に、自ら設定した目標設定と課題、およびその解決について発表する。			
7				
8				
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				
16				
17				
18				
19				
20				
21				
22				
23				
24				
25				
26				
27				
28				
29				
30				

理解に必要な予備知識や技能	本実習は、実践活動の場において、管理栄養士として必要な実践的な栄養ケアの知識・技術を総合的に学ぶため、これまでに学んだ専門科目の十分な知識・技術を必要とする。
テキスト	必要に応じて、資料を配布する。 福岡県栄養士会監修：病院栄養管理の基本と実際(福岡県栄養士会)
参考図書・教材／データベース・雑誌等の紹介	寺本房子編：臨地実習マニュアル「臨床栄養学」(建帛社) ISBN:978-4-7679-0686-7
授業以外の学習方法・受講生へのメッセージ	臨地実習 2 は、管理栄養士国家試験受験必須科目です。そのため、実習のための要件科目が設定されています。本実習は、臨地実習 1、栄養治療学 1・2、臨床栄養管理学、栄養教育論 1・2、栄養カウンセリング論、臨床栄養学実習、栄養教育論実習 1・2、公衆栄養学 1・2、公衆栄養学実習の単位を全て修得しておかなければ履修できません。また、臨地実習 2 に望むにあたり、これまで受講した各教科について十分に復習し、傷病者に対し、『管理栄養士』としてどのような栄養管理を行うかについて、各自でテーマを設定、十分な事前学習を行い、疑問を解決することのできる能力を養いましょう。
達成度評価に関するコメント/課題に対するフィードバックの方法	評価については、授業中で説明する。【その他】は実習施設からの評価とする。レポートは評価後に返却する。